



生徒が自ら辞書を引きたくなるように

——『ベーシック ジーニアス英和辞典』を使って

野村和秋



■ How do you say “jisho-shido” in English?

「辞書指導」という言葉を聞いて私がすぐに連想するのは、学生時代によく言われた言葉「辞書を一冊ぼろぼろになるまで使って初めて、その言葉を勉強したと何とか言うことができる」です。「学問に王道なし」という言葉と同様、これは現在も通用する真実であるのではないのでしょうか。

「辞書指導」とは、具体的に生徒に何を指導するのでしょうか。「辞書指導」の目的は、単に辞書の引き方を解説することではなく、生徒が自ら進んで辞書を引きたくなるように導くことだと思います。英語で言うなら、“teaching students how to use a dictionary”ではなく、むしろ“encouraging students to consult the dictionary”となるでしょう。

そのためには、辞書を引けばどんなことがわかるのかを、生徒に具体的に知らせることが必要です。

発音：辞書を使って、生徒に正しい発音を習得させる。

語義：辞書を読むことによって、生徒にそれぞれの単語の正確な意味に気付かせる。

語法：それぞれの語の使い方を学ぶためにも辞書をひかせる。

語彙をふやす：辞書を使って語彙を増やす方法を教える。

作文：英文を書く時、辞書がどれほど役に立つかを例を挙げて示す。

文法：文法を学ぶためにどのように辞書が使えるかを示す。

■カタカナも使って英語の発音

日本の高校一年生で、一体何人が4月、5月に、adjective [ædʒɪktɪv]と書いてあるのを発音できるでしょう。

いまどき、2色刷辞書なんて珍しくもないけれど、このBasic Genius（以下BG）では、本当に効果的に、《発音注意》、《アクセント注意》が目に入ってきますね。発音表記にカタカナ表記の併用も、珍しいことではないけれど、《◆×アドジェクティブ》と親切に書いてくれている辞書はありませんね。同じように、gross グロウス（発音注意）《◆×グロス》。

教室で生徒が間違える発音については、ほぼ全部に《注意》表記がなされているでしょう。sword もそう、wool もそう。

sit-shit, see-she, boat-vote などの練習をしているうちに、さらに、rice-lice, right-light（語頭の[r]！ウライト！）。カタカナをこんなによく活かすことができるんですね。まさに「カタカナの威力」ではありませんか。

あとは[s]-[θ], [ʌ]-[ɑ], [o]-[ɔ]などに注意させさえすればよいのだから。

■黒いダイヤモンド(◆)を探して

Genius 初版から使用してきた世代の教師の一人として、◆には本当に楽しませてもらい、どれほど助けられてきているかわかりません。

教室で、「シット ダウン」などと言う発音をする生徒がいたら、「taboo words の◆を見て。放送禁止用語はダメ」。そして、BGでは、それが、



(発音注意)、《アクセント注意》にまで、応用されている。しっかりした発音で、国境を越えて、「発信」していくことは、これからますます必要とされていくでしょうから。

教室で、◆を探させ、それによって説明をする—教室での学習に、広がり、深みが得られる瞬間です。もちろん、◆だけでなく、PC (= politically correct) もそう。語法の囲みもそう。

BG では、例えば traffic の項においては、《つづり字注意》も、Q&A も登場していますね。

■英語を図解して

user-friendly にするための工夫のひとつが、「基本語の語義の図解」。どの辞書もそれぞれ図解に工夫をこらしており、それぞれ「う〜ん」と感じたりします。結論からいうと、BG は、図解でもなかなか健闘しているな、という印象をもちます。気付いたことを羅列すると、

① ago は「現在を基準に」を表す目の絵がチャージングです。反意語として、in も載っているとよいと思います（あるいは黒板に書いてやる、生徒に書かせる）。

② depress では、5 本の下向きの矢印が、下へと press された状態をととてもよく表現している。同じ <press> を含む他の語、例えば express (心の中から外への press) や impress (外から心の中への press) にも同じように絵があると（あるいは黒板に描いてやる）、関連した「辞書指導」が、楽しくできるのではないのでしょうか。

③ impose では <press> より弱い <pose> を一本の矢印で描いているのが興味深いです。これも同じラテン語の <pono> を語源にもつ depose, deposit にも絵があると（あるいはその絵を生徒に考えさせると）よいと思います。

④ emerge, emergency は語源と合っていてユーモラスです。など、など。

Genius 第 4 版では、「主な前置詞には基本義を視覚的に表したイメージ図が置」かれ、わかりや

すく示され、第 3 版と明らかに印象が異なっています。Genius 第 4 版の、among, around, by, down, from, in front of, in, into, onto, opposite, out of, through, toward, up などの図を取り入れて、さらに魅力的な BG になることを望んでいます。

Genius 第 3 版では（そして、Practical Genius でも）、above の項に、on, over も、まとめられています（第 4 版では、それぞれの項に分散）。BG も第 3 版と同じく above のところで、3 語の対比がなされており、これはとても分かりやすいので、on, over のところにも、「◆above の図を参照」のような注釈がぜひ欲しいところです。

■辞書を読んで

授業では、BG を、箱から出して机の上に置かせ、いつでも引きたい時に引いていいことにしています。最初に教室で使ったのが Fresh Genius, その後、Genius 改訂版、第 3 版と Practical Genius, そして今年の Basic Genius。

作家の大江健三郎さんは、病院の待ち時間の読み物のために、COD を持って行ったりすることがあるそうですが、辞書は、ただ引くためだけでなく、読むこともあると、ぜひ奨めたい。「図解でも、Q&A でも、語法でも、a から z まで通して読んでみたら」と。あるいは、付録の「文法のてびき」も。

「辞書を一冊ぼろぼろ…」の話を一年の最初に生徒にしておくと、「先生、これくらいではどうですか」と辞書を掲げて尋ねる生徒がいる。「そうやね、まだまだ、かな」と答えると、「先生のもまだまだですね」と、嬉しいことを言ってくれる。「そう、まだまだお互い進化の途中、大切なのは続けることだよ」と、“encourage students to read BASIC GENIUS” していきたいと思います。

(のむら かずあき・啓光学園高等学校教諭)